

# 「和魂洋才」

わこんようさい

(第十七回)

最近、様々な事件が連続している日本。荒廃しつつある教育や社会が不安だ。古き良き時代とはまったく違う。日本人の気質が変わってきたのだろうか？

日本では古来より、八百万の神が活躍し、役割分担でうまく調和してきた。人々の生活はアナログ的でアジア的。曖昧模糊とした雰囲気、喧嘩をせず、まろく治まってきた。一方、諸外国では状況が違う。一神教が多く、至高至善の神がすべてを統合。デジタル的思考で黒か白かはつきりさせ、他の価値観は共存できない。さて、旧一円札でおなじみの聖徳太子が制定した憲法十七条をみてみよう。「二に曰く、和

## 健康のススメ

板東 浩

を以て貴しとなし」。まずは、豪族間の協調が大切である。彼は皇室出身で、神道を重要視するとともに、卓越した仏教学者でもあった。「二に曰く、篤く三宝を敬へ」。三宝とは仏(佛像)、法(経典)、僧(僧侶)のこと。聖徳太子は

当時、世界で初めて、神道と仏教という二つの宗教を融合させた。素晴らしい偉業であり快挙。お互いに優れた技術は大陸から学んで取り入れる「和魂漢才」。この精神こそが、日本人のバックボーンとなっているのだ。今後のキーワード

は「和魂洋才」。日本固有の精神と西洋伝来の学問を備え持つこと。これを目指して毎日を送れば、みんながもっとハッピーになることだろう。(徳島大学附属病院内科医師)